

『図画教育通信』目次（４）

－第 230 信（昭和 3 年 1 月 1 日）～第 237 信（昭和 3 年 10 月 10 日）－

The Tables of Contents “Zuga-Kyoiku Tsushin”（４）

－ from No.230（January.1928） to No.237（October.1928）－

亀 澤 朋 恵

Tomoe Kamezawa

（ 要 約 ）

本稿は、『図画教育通信』第 230 信（昭和 3 年 1 月 1 日）から第 237 信（昭和 3 年 10 月 10 日）までの目次である。これまで、第 168 信から第 237 信までの間の 42 号分（途中欠落あり）について、（１）から（３）までに分けて目次を一覧化した。本稿はそれに続く第 4 弾であり、第 230 信から第 237 信までの目次を表にまとめたものである。本稿にてひとまず目次の一覧化が完了した。目次を一覧化した上で看取できる記事の特徴と、中等図画教育現場の内実との関連について検討を行うための分析課題として、①川村東陽の図画教育観、②図画教員のキャリア形成、二つの視点を提示した。

（キーワード）

『図画教育通信』、戦前期中等図画教員、美術教育史

はじめに

本稿は『図画教育通信』第 230 信（昭和 3 年 1 月 1 日）から第 237 信（昭和 3 年 10 月 10 日）までの目次一覧である。これは戦前期の図画教育に関する基礎資料づくりとして目次作成に着手したもので、第 1920（大正 10）年から 1928（昭和 3）年までに刊行されたもののうち、これまで所在と内容が確認できた 42 号分を（１）から（３）までにまとめた。本稿はその第 4 弾であり、これをもって最終となる。

1. 『図画教育通信』第 230 信～第 237 信目次

『図画教育通信』第 230 信（昭和 3 年 1 月 1 日）から第 237 信（昭和 3 年 10 月 10 日）までの目次を下記の表 1 にまとめた。

表 1 『図画教育通信』第 230 信～第 237 信 目次

第 230 信 昭和 3 年 1 月 1 日発行	題名	頁	筆者	備考
	▲我国は国土が狭くて人口が多い・・・	1		※ 1
	中学図画科の三年打切説が物になるや否やは別問題として・・・	1		※ 1
	文部省諮問案に対する中学校長会議の答申が中学図画三学年打切案に驚いて 図画教育界御歴々 白浜 阿部 赤津 本間 今井の五氏 谷 山形 二氏欠席 文部省に押掛く	2		

木村督学官ヌラリクラリと受流す			
図画手工記者倶楽部生る	2		
動静	2		
荒磯に初日の松の枝寒し 愚哉	2		
外職彙報 四十一 豊橋中学校教諭細島昇一氏を中心とする豊橋図画研究会の新著 实际的取扱を示せる新主義図画教授細案 定価二円九十銭 送料十八銭 本社にて取次す	3		
謹賀新年	3		
巷の噂	3		
商工生募集	3		※ 2
引伸写真 全紙 尺九寸尺四寸 十三円 半切 尺四寸九寸五 九円 四切 九寸五七寸 五円 原画は成るべく乾版を提供せられたし 写真を送らるゝ向は複写料五十銭増し 本社 引伸写真部	4		※ 2
新刊 旧刊 本社にて取次す	4		※ 2
活版石版コロタイプ御注文に応ず 本社印刷部	4		※ 2
直線支空器	4		※ 2
針金製幾何形体模型	4		※ 2

第 231 信 昭和 3 年 2 月 1 日発行

題名	頁	筆者	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い・・・	1		※ 1
国際美術教育会議に刺激せられて国際美術教育協会設立運動	1		
図画科に最も理解と同情ある東京府立第五中学校長 伊藤長七氏	2		
中学校長答申案に依る図画科問題に対する文部省当局の意向	2	東京府立第三高等女学校教諭 今井伴次郎	
動静	3		
乙女子の雛たのもしきよもすがら 愚哉	3		
近頃賑かな事ども ▲国家代表の夢 ▲陰に動く黒い手 ▲血迷ふた座長	3		
新刊 旧刊 本社にて取次す	4		※ 2
活版石版コロタイプ御注文に応ず 本社印刷部	4		※ 2
直線支空器	4		※ 2
針金製幾何形体模型	4		※ 2

第 232 信 昭和 3 年 4 月 15 日発行

題名	頁	筆者	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い・・・	1		※ 1
東京に出て就職の傍勉強をしたと云ふ人が仲々多い・・・	1		※ 1
足洗記 其六 元茨木中学教諭 鈴木雪哉氏 今は東都に於て彩筆を採り併せて道場を開きて禅三昧に	2		
優良教師として東京市より表彰せられたる 図画科四谷第三小学校訓導 小林保司氏	3		
図画手工科卒業生 美術学校師範科/東京高師図画手工専修科/東京女高師図画専修科	3		
動静	3		
春風に笹舟流す小川かな 愚哉	3		

『図画教育通信』目次（４）

新刊 旧刊 本社にて取次す	4		※ 2
活版石版コロタイプ御注文に应ず 本社印刷部	4		※ 2
直線支空器	4		※ 2
針金製幾何形体模型	4		※ 2

第 233 信 昭和 3 年 5 月 15 日発行

題名	頁	筆者	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い・・・	1		※ 1
学用品は購買部を設けて製造元と直接取引すべきを理想とせねばならぬ・・・	1		※ 1
埼玉県師範学校 加藤邦造竹野谷仁重両氏を中心とし文検準備を目的とする埼玉県図画教育研究会 現在会員三十六名の多数に上る	2		
第六回国際美術教育大会に出席する諸氏	2		
動静	2		
春風に笹舟流す小川かな 愚哉	2		
外職彙報 四十二 長野県喬木第一小学校渡辺福義氏等を中心とする下伊那芸術教育会創立さる	3		
外職彙報 四十三 国展入選の富山県立滑川高等女学校教諭 松下宗義氏	3		
引伸写真 全紙 尺九寸尺四寸 十三円 半切 尺四寸九寸五 九円 四切 九寸五七寸 五円 原画は成るべく乾版を提供せられたし 写真を送らるゝ向は複写料五十銭増し 本社 引伸写真部	4		※ 2
新刊 旧刊 本社にて取次す	4		※ 2
活版石版コロタイプ御注文に应ず 本社印刷部	4		※ 2
直線支空器	4		※ 2
針金製幾何形体模型	4		※ 2

第 234 信 昭和 3 年 6 月 15 日発行

題名	頁	筆者	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い・・・	1		※ 1
図画手工教員に将来の光輝あるか	1	川村東陽	
白浜氏に後任として美術学校図画師範科主任となりたる 伯爵平田松堂氏	2		
図画教員より羅南高女校長となりたる 佐藤三代治氏	2		
外職彙報 三十五 スケッチ板携帯金具「特許板サシ」を考案せる大阪府立天王寺中学教諭 笥敦良氏	3		※ 3
動静	3		
田の中の一筋道や蜚飛ふ 愚哉	3		
四八回文検本試験日割	3		
文検予備試験合格者	3		
新刊 旧刊 本社にて取次す	4		※ 2
活版石版コロタイプ御注文に应ず 本社印刷部	4		※ 2
直線支空器	4		※ 2
針金製幾何形体模型	4		※ 2

第 235 信 昭和 3 年 7 月 10 日発行

題名	頁	筆者	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い・・・	1		※ 1
▲現在学校教育の危機欠陥は・・・	1		※ 1
外職彙報 三十六 女子学習院教授上甲次郎黒田芳生両氏の新著 定価二円九十銭 送料十二銭 本社にて取次す 尋常科一二年 クレイヨン画の新指導	2		※ 3
松下氏新燈美術展覧会へ入選	2		
滋賀県女子師範学校 北垣巳之助氏の製作に成れる悠紀齋田の模型	2		
商工生募集	2		※ 2
奏任待遇となられたる豊橋中学校教諭 細島昇一氏	3		
動静	3		
夕立の通りしあとや夕日影 愚哉	3		
国際美術教育会議に出席する我国の三代表者	3		
引伸写真 全紙 尺九寸尺四寸 十三円 半切 尺四寸九寸五 九円 四切 九寸五七寸 五円 原画は成るべく乾版を提供せられたし 写真を送らるゝ向は複写料五十銭増し 本社 引伸写真部	4		※ 2
新刊 旧刊 本社にて取次す	4		※ 2
活版石版コロタイプ御注文に応ず 本社印刷部	4		※ 2
直線支空器	4		※ 2
針金製幾何形体模型	4		※ 2

第 236 信 昭和 3 年 10 月 1 日発行

題名	頁	筆者	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い・・・	1		※ 1
▲現在学校教育の危機欠陥は・・・	1		※ 1
那須御用邸の展望を描写し奉れる 栃木県師範学校教諭 福田四郎氏	2		
奏任待遇となりたる多度津中学校教諭 丸岡英夫氏	2		
奏任待遇となりたる宮崎中学校教諭 山田辰之助氏	2		
動静	2		
塩原に人まばらなり秋の風	2		
奏任待遇となりたる大垣中学校教諭 小森研二氏	3		
文検本試験合格者 西洋画用器画/日本画用器画/手工	3		
秋の各展覧会 二科会展 (第十五回) /日本美術院展 (第十五回) /日本南画院展 (第七回) /帝展 (第九回)	3		
商工生募集	3		※ 2
引伸写真 全紙 尺九寸尺四寸 十三円 半切 尺四寸九寸五 九円 四切 九寸五七寸 五円 原画は成るべく乾版を提供せられたし 写真を送らるゝ向は複写料五十銭増し 本社 引伸写真部	4		※ 2
新刊 旧刊 本社にて取次す	4		※ 2
活版石版コロタイプ御注文に応ず 本社印刷部	4		※ 2
直線支空器	4		※ 2
針金製幾何形体模型	4		※ 2

第 237 信 昭和 3 年 10 月 10 日発行			
題名	頁	筆者	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い・・・	1		※ 1
足洗記 其七 元高崎高女教諭 荒木月畝女史 今は東京に在りて寛畝系の女流画家として名声噴々	1		
外職彙報 (三十七) 二科展に再入選の堺市立堺高女教諭 相原覚太郎氏	2		※ 3
二科展へ入選の岐阜県富田高女教諭 早川国彦氏	2		
二科展へ入選の東京府立一中教諭 丸野豊氏	3		
二科展へ入選の東京竹芝小学校訓導 手島貢氏	3		
動静	3		
白蓮のほろほろ散りぬ魂祭 愚哉	3		
引伸写真 全紙 尺九寸尺四寸 十三円 半切 尺四寸九寸五 九円 四切 九寸五七寸 五円 原画は成るべく乾版を提供せられたし 写真を送らるゝ向は複写料五十銭増し 本社 引伸写真部	4		※ 2
新刊 旧刊 本社にて取次す	4		※ 2
活版石版コロタイプ御注文に应ず 本社印刷部	4		※ 2
直線支空器	4		※ 2
針金製幾何形体模型	4		※ 2

【註】※ 1 タイトルなし ※ 2 広告 ※ 3 第 234 信以降、通し番号が「四十二」から「三十五」へさかのぼり、「三十五」以降は連番であるが、原文ママである。

【付記】表記は常用漢字、現代仮名遣いに改めた。

2. 今後の課題

これまで作成した目次全体を概観し、目次から見出せる記事の特徴と、戦前期の中等図画教育の内実との関連について、拙稿『図画教育通信』目次（２）において課題を一部示したが¹⁾、改めて今後の課題を整理する。『図画教育通信』はおもに師範学校、中学校、高等女学校などに勤務する中等図画教員を対象としたものであり、第 1 に主事の川村東陽の図画教育観、第 2 に中等教員のキャリア形成に関すること、大きく二つの視点から検討できる。

第 1 の点について、川村は図画教育の現状をどのようにとらえていたのか。いわば彼の図画教育観については、紙面で毎号あるいは複数号にわたって繰り返される記事が非常に示唆的である。とくに「我国は国土が狭くて人口が多い…」で始まる記述はほぼ毎号巻頭に示され、彼の図画教育観を検討する上で最も重要な記述といえよう。端的に言えば、図画科の技術教育的側面に価値を置く主旨のものといえる。また、「学用品」に関する記述も多い。「学用品の粗製乱造品質の大半の責任は顧客にある…」や「学校購買部論」なども看過できない。さらに、紙面の最終頁が自社の取り扱う商品の広告に割かれるなど、何らかの強い意思が見受けられる。そして、教育実践的な取り組みについて、図画教育通信社主催の講習会の内容、たとえば染色関連の講座が開催されたが、これらは教育現場のニーズに沿ったものであったのか等、検討の余地がある。その他、図画教員の労働環境やキャリア形成についても関心が高いようで、「図画教員に将来の光輝あるか」等の記事で繰り返し言及されている。これら川村の図画教

育に関する認識や思考などについて、戦前期の中等図画に関する教育思想上の位置づけについて稿を改めて考察したい。

次に、第2の点について、中等教員のキャリア形成の実態について示唆的な記事が多い。「図画教育通信」の紙面に紹介されたり、あるいは寄稿したのは、多くが中等教員である。勤続年数の多い図画教員が各々の来歴や所感など述べているほか、「外職彙報」では展覧会入選や書籍の出版等、教育現場の外での教員の活動が紹介されている。さらに1926（大正15）年頃から「足洗記」という、学校現場を退職した図画教員が紹介される記事が登場するようになった。先述の「図画教員に将来の光輝あるか」という、図画教員に対する川村の認識との関連に留意しつつ、中等図画教員のキャリア形成の実態への接近を試みることができるだろう。

【謝辞】 この研究は科学研究費助成事業（課題番号:19K14081）の助成を受けたものです。

1) 拙稿『『図画教育通信』目次（2）——第205信（大正14年10月15日）～第220信（昭和2年3月1日）——』『愛知江南短期大学紀要』第50号、2021年、93頁。